

ふくおかのふくし

150号
Mar.2015

Welfare of Fukuoka



福岡三越で行われた障害者のまごころ製品大規模販売会の様子

今号の内容

- 特集「障害者優先調達法施行から2年。販路拡大へ」 p 1
- 空き家を元気な地域づくりに活用 p 3
- 福祉のしごと就職フェア2015 in FUKUOKA 開催 p 5
- 人の心に寄り添う活動を支援！赤い羽根共同募金 p 6
- 社協と施設の専門性を活かした社会貢献活動を！ p 7
- ふくふくニュース p 9



じぶんの町を良くするしくみ

赤い羽根共同募金

この広報誌は、一部共同募金の
配分金を受けて発行しています。

特集

「まごころ製品」あります！

障害者優先調達法施行から2年。販路拡大へ

法により国及び各都道府県、市町村は調達目標を示したうえ、障害者就労支援施設・事業所からの物品や役務の調達を進めることとなりました。

しかし、福岡県内の一部の市町村では、障害者就労施設等からの物品等の調達の推進を図るための方針が策定されていませんでした。

福岡県の就労継続支援B型事業所の月額平均工賃（収入）は、全国平均を千円程度下回る1万3千円余であり、販路拡大による収入向上は大きな課題となっており、法施行に基づく適切な対応が求められています。

そこで、本センターでは、全国社会就労センター協議会及び日本セルフセクターが実施した「優先調達推進法の日・週間」全国キャンペーンに合わせ、平成26年6月23日に小川知事を訪問し、要望書を直接手渡した上で、県の更なる協力を訴えました。

県では、副市町村長会議等で策定を強く働き掛け、平成27年1月9日現在で、県内56市町村で調達方針が策定されました。

この結果、官公庁から記念品や事務用品等の物品発注に関する問い合わせが増え、「まごころ製品」の認知度も急速に高まっています。

共同受注により 更なる販路開拓へ

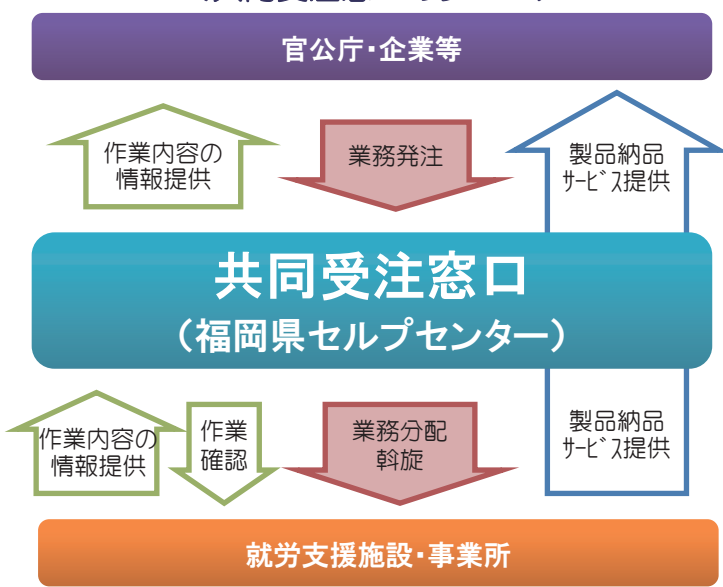
「まごころ製品」の販路拡大を更に推進するため、本センターでは、平成27年2月に、福岡県から『共同受注窓口設置運営業務』の委託を受け、共同受注窓口の設置に取り組んでいます。

前述のとおり、「まごころ製品」への関心は高まっていますが、発注者側からは「どこに発注すればよいのか、どんな製品・サービスがあるのかわからない」「製品の発注条件（量、

品質納期等）が希望と合わない」「デザインやパッケージが贈答品や記念品には向かない」等の意見が寄せられ、単独の施設・事業所では対応が困難であるという課題が見えてきました。

一方、受注する障害者施設からは、「官公庁や企業のニーズがわからない」「短期間で機械設備や人的な問題で対応できない」「限られた職員で事業所の運営や利用者の支援を行っており、営業活動まで手が回らない」な

＜共同受注窓口のフロー＞



官公庁も応援

障害者優先調達推進法

「まごころ製品」が浸透してきたきっかけの1つが、平成25年4月に施行された「障害者優先調達推進法」（以下、「法」という）です。

有名シェフ監修のピクルス、全国から注文が相次ぐ木製ままごとキッチン、有名メーカーとコラボした文房具、地場酒蔵と共同開発した芋焼酎など、福岡県では、障害者の皆さんがつくる製品や提供するサービス全てを「まごころ製品」と名付けて、福岡県社会就労センター協議会及び福岡県セルフセクター（以下、本センター）とともに販売の拡大に取り組んでいます。平成26年度は、テレビや新聞、雑誌など、様々なメディアで紹介され、丁寧な仕事で高品質と評価を受けました。

今号では、この「まごころ製品」を通じて、障害者の収入向上への取り組みを紹介します。

どの悩みがあり、まだまだ需要と供給がうまくマッチングしていない状況です。

そこで、本センターは、これらの課題解決を図りながら、障害者の収入向上につなげるため、共同受注窓口を立ち上げました。

この共同受注窓口は、企業等からの受注窓口を一本化し、ニーズに合わせた製品・サービスを紹介するだけでなく、各事業所間で製品の品質を統一し、納期を調整することで分割受注にも対応し、これまで、単独事業所では難しかった大口の受注に対応することを目指しています。

また、共同受注窓口に営業職員を配置することで、製品・サービスの営業や、企業等に求められているニーズ把握を行うことで、安定した受注や、規格・包装等の統一、商品開発など、品質の向上につながる事業を共同で効果的に行うことも目指しています。

大人気!! 福岡三越で大規模販売会

「まごころ製品」は、百貨店でも人気となっています。

去る1月21日から25日までの5日間、福岡三越で2回目となる福岡県「まごころ製品」大規模販売会を実施しました。

今回は、福岡県と本センターの共同

事務局で事業を実施し、県内各地から選りすぐりの商品約5万点を販売しました。



初日の開会式では、秋吉正人本センター会長と小川洋福岡県知事の主催者あいさつ、岩元一儀福岡県議会副議長からの祝辞に続き、和白苑 伊藤さんの「みんなで頑張ろう!」と元気いっぱいの掛け声で販売会の幕が開きました。



期間中の24日と25日には、食の匠集団『博多食文化の会』の協力による食のスペシャルイベントとして、ホテルオークラ福岡とメゾン・ド・ヨシダのシェフがそれぞれ障害者施設で採れた新鮮な卵や野菜、パン等を使って創作したフレンチトーストやローストビーフを特別販売し、大人気となりました。

5日間の売り上げは、前回は大幅に超える1,300万円余となりました。来場者からは「前回買った商品が美味しかったので、今年も買いに来ました。」「どの商品も丹精込めて作られていて、大変気に入りました。」等の声も聞かれ、大規模販売会は大成功でした。

高品質で心のもった
「まごころ製品」はいかが?

障害者の皆さんが心をこめて丁寧に作るパンやお菓子などの食品、縫製品、木工品など「まごころ製品」は高品質と評判。現在、広島や東京など全国各地から注文が来ており、大変好評です。

まごころ製品ショップ

商品の詳しい内容はホームページをご覧ください。
まごころ製品ショップ GO

福岡県セルフセンター(社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会内) 21161
福岡県春日市原町3丁目1番7号 クローバープラザ6階 TEL:092-584-3377

本センターでは、今後も、まごころ製品の販路拡大を通じて、障害者の社会参加を促進するため、共同受注の取り組みを推進していきます。

なお、この取り組みに参加を希望される障害者就労施設・事業所は左記事務局までご連絡ください。

また、本センターと福岡県では、3月25日にクローバープラザで障害者就労施設・事業所向けの「平成27年度県事業および共同受注窓口説明会」を開催します。

【問い合わせ先】

福岡県社会就労センター協議会・
福岡県セルフセンター事務局
(福岡県社会福祉協議会 施設課)

☎ 092・584・3377

空き家を元気な地域づくりに活用

～みんなが主役の元気な地域づくりセミナー開催報告～

近年、全国的に空き家や空き店舗等が増加傾向にあり、防災・防犯・衛生・景観など、様々な面で大きな問題を生じさせ、いわゆる「空き家問題」として危惧されています。

総務省統計局が平成25年に実施した調査によると、福岡県において31万6800戸の空き家があるという調査結果が出ています。

そこで本会では、「空き家を活用した地域のつながりづくり」をテーマに、地域が抱える問題や地域のつながりづくりの大切さについて、地域住民、ボランティア活動者、専門職などの参加者が一緒に考え、官民一体となった住民主体の元気な地域づくりを進めることを目的に、去る平成27年2月23日（月）に福岡国際会議場（福岡市）で「平成26年みんなが主役の元気な地域づくりセミナー」を開催しました。

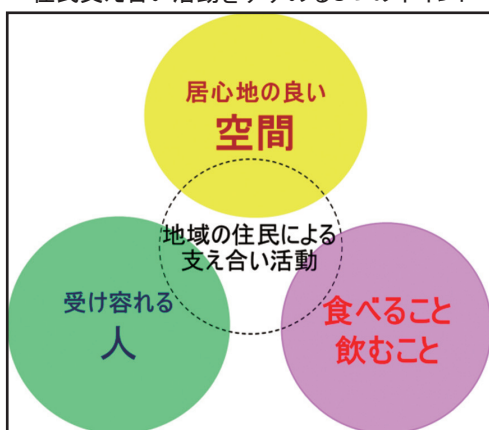
今回で9回目を迎える本セミナーは、県内外から社協関係者や社会福祉施設職員、民生委員・児童委員、福祉委員など、約1200名が参加し、熱心に受講いただきました。

「つながり、支え合う、元気な地域づくりのススメ」

日本福祉大学 社会福祉学部 児玉善郎 教授を講師に迎え、「つながり、支え合う、元気な地域づくりのススメ」と題して、全国的に増加している空き家の現状を踏まえながら、支え合い活動をすすめるポイントについて講演いただきました。

児玉氏は、「現在、全国的に空き家が増加しており、平成25年の調査では、全国の空き家総数は818万戸、空き家率は13.5%という結果が出ています。空き家が増えることで、火災や倒壊の危険性、非行や犯罪の温床となるリスクなど、地域の安全な暮らしを脅かすことにつながります。そうならないためにも、空き家を負の遺産として捉えるのではなく、地域の資源として、地域交流の拠点や移住・定住の場として活用するなどの取り組みが求められています。」と空き家が増えることによる問題や活用するための視点について話されました。

住民支え合い活動をすすめる3つのポイント



また、「つながり、支え合う、元気な地域づくりの活動をすすめるためには、①誰もが気軽に行きたくなる、居心地の良い空間の存在、②誰でも受け入れることができ、相手に受け入れられていると安心させる『人』の存在、③食べることや飲むことをきっかけとしたつながりから支え合いへの展開の3つがポイントとなります。」と住民支え合い活動をすすめるためのポイントについて示されました。



日本福祉大学 社会福祉学部 児玉 善郎 教授

地域で実践できるレクリエーション実演

セミナーでは、福岡県レクリエーション協会 専務理事の佐藤靖典氏から、誰もが知っている「365歩のマーチ」「明日があるさ」「野に咲く花のように」の音楽に乗せてレクリエーションを実演いただきました。

さらに「皆さんが日頃から取り組んでいることは、自ら輝きつつ多くの人に喜びを与え、社会を明るく元気にします。『喜ばれるよろこび』を大切に、『できる人が、できることを、できる時に、できるだけ出し惜しみしない』、助け、助けられ、支え、支えられる運動を展開し、社会を笑顔・元気にしていきたいと思います。」とメッセージもいただきました。



福岡県レクリエーション協会 佐藤 靖典 専務理事

午後のパネルディスカッションでは、児玉教授をコーディネーターに、実際に空き家を活用した取り組みを行っている2団体による報告のあと、空き家を活用した地域のつながりづくりのポイントについて話し合いました。



大牟田市社会福祉協議会
蔵森 久美子 氏 (上)

糸島空き家プロジェクト
宇都宮 明翔 氏 (中)
青柳 光 氏 (下)

大牟田市社会福祉協議会では、平成22年に「大牟田市空き家再生プロジェクト」を立ち上げ、空き家を活用した地域福祉の推進に取り組んでいます。また、住まいに関する課題を共有し、協働して住宅支援に取り組むため、平成25年に設立された「大牟田市居住支援協議会（大牟田住みよかネット）」の事務局も担っています。

蔵森氏は「空き家を活用した取り組みは、社会福祉協議会だけではできません。様々な業種の方との連携が大事だと考えています。また、この取り組みを市民の方に知ってもらうための情報発信も必要であると感じています。」と話されました。

糸島空き家プロジェクトは、糸島地域に存在する空き家を再生することで、地域の活性化や地域づくりを行うために、九州大学の学生が中心となって立ち上げた学生団体です。

宇都宮氏は、「空き家があるからといって、すぐに活用できるわけではありません。まずは、住民の方に活動を知ってもらい、信頼関係をつくるのが大切だと感じています。」と話されました。

青柳氏は、「空き家の問題は、糸島だけでなく、他の地域でも同じような課題があると思います。」

糸島空き家プロジェクトで取り組んだことを、他の地域にも伝えていくことも必要だと感じています。」と話されました。



1000名を超える県内民生委員児童委員が集結！

福岡県民生委員児童委員セミナー開催

去る2月12日(木)、クローバープラザ 大ホール(春日市)で、平成26年度民生委員児童委員セミナーが1,000名超の参加のもと開催されました。

本セミナーは、社会・経済状況が大きく変化している中、その動きを正しくとらえて、住民の身近な相談者、支援者としての役割を果たしている民生委員児童委員が、今後も住民に最も近い地域福祉の担い手として、その資質の向上や活動の一層の充実のため、福岡県民生委員児童委員協議会が主催し、毎年開催しているものです。

はじめに、福岡県民生委員児童委員協議会会長表彰が行われ、73名の受章民生委員児童委員の中から、各ブロックを代表して4名の方々に同協議会 吉田 哲磨 会長から表彰状が授与されました。



表彰式の様子



日本福祉大学
大沢 勝 名誉総長

その後、日本福祉大学 大沢 勝 名誉総長(福岡県出身)に『「今」を懸命に生ききる』と題し、ご自身の経験を基に地域福祉活動を行う上でのポイントについて記念講演をいただきました。大沢氏は「目の前にあることに真摯に向き合い、「今」を生ききることで、新たなつながり、輪が生まれる。」と話され、最後に東日本大震災を経験した子ども達が歌った「空より高く」を聴ききながら、命の大切さについて語られました。

【問い合わせ先】 福岡県民生委員児童委員協議会 事務局
(福岡県社会福祉協議会 地域課) ☎092-584-3377

福祉の職場を目指す480名が参加！

福祉のしごと就職フェア2015 in FUKUOKA 開催

本会では、去る2月6日（金）にクローバープラザ（春日市）で「福祉のしごと就職フェア2015 in FUKUOKA」を開催しました。

福祉・介護分野の人材不足が喫緊の課題として指摘される中、福祉施設・事業所と求職者との直接面談の場である本フェアへの期待は大きく、当日は、県内161法人から、介護職をはじめ相談員や介護支援専門員、保育士、事務職員など1,791名の求人がありました。

本フェアに参加の法人には、事前にセミナーの受講を義務づけています。これは、本フェアを通して一人でも多くの入職者を確保するため、各法人が求職者の傾向を把握した上で、採用活動のポイントや職場の魅力や特徴を最大限に表現するためのブースの作り方等を学ぶもので、厚生労働省社会・援護局長のもとに設置された「福祉人材確保対策検討会」の構成員でもある株式会社リクルートキャリア 門野 友彦 氏の協力を得て実施しました。

その成果もあり、法人の「らしさ」が十分に表現された各ブースでは、担当者が独自の採用ツールを使用しながら、積極的にPRする姿が見られました。



どの施設もブース作りに力が入っています



各ブースとも参加者への丁寧な説明に心掛けました

本フェアには480名の学生・一般求職者が来場しました。求職者には、当日の面談前に、自分に合った職場選びのポイント等を学ぶ「就活応援セミナー」を受講してもらいました。

これを踏まえて、配付された求人情報冊子で職種、処遇面等を確認しながら、就職にあたっての悩みや疑問点、入職後のキャリアアップや法人の将来的なビジョン等を熱心に聴き取っていました。

本会では、福祉・介護分野への就業促進のため、無料職業紹介や就職・資格に関する各種相談・セミナー、職場体験事業などを行っています。ぜひお気軽にご相談ください。

福祉のしごとのことなら
おまかせください！

【問い合わせ先】

福岡県社会福祉協議会 人材・情報課
（福岡県福祉人材センター）

☎ 092-584-3310



熱気あふれる就活応援セミナーの様子

人の心に寄り添う活動を支援！赤い羽根共同募金

福岡県では、毎年自ら命を絶たれる方が1000人以上おられます。国では、月別自殺者が最も多い3月を「自殺対策強化月間」とし、ひとりひとりが自殺を身近な問題であると捉えられるよう全国各地で様々な取り組みが行われています。

私たちが悩みや不安を抱えた時、それを解消・軽減するために何をしますか。家族や友人など身近な人に話を聞いてもらい、共感や助言を求めることから始めるでしょう。しかし、自分の気持ちを伝えられない、伝える人がいない、伝えても理解してもらえない…。このように、ひとりで辛い思いを抱えている人がいます。



電話は、1日に約50件。
平均相談時間は約26分。長いときには、2時間を超えることも。

死を選ぶその前に、できることがある。昨年創立30周年を迎えた社会福祉法人福岡いのちの電話。「眠らない電話」として、24時間年中無休で電話相談を受けています。

平成25年度の相談件数は1万8285件。そのうち自殺志向を伴う相談は、2037件。五斗美代子常務理事は、「社会のあり方が変わり、ストレスの発散の仕方も変わってきてました。本音で話したり直接言葉を交わしたりする機会が減っているのです。」と人間関係の希薄化が相談者の背景にあると話されます。

いのちの電話は匿名で相談することができ、お互いが匿名だからこそ、気兼ねなく話せるそうです。「相談者は、やっぱり孤独なんです。いのちの電話は最後の拠り所だと思っています。」相談員の皆さんは、そんな思いで毎日電話を受けられています。声だけを頼りに相談者を受け止め、相談者が自分で答えを見つけていけるよう話を聞いていく。相談員は、養成研修を終了し

認定を受けた後も月1回の継続研修を受講します。「話を聞くために必要なことなんですよ。」と五斗さん。以前は、専業主婦が多かった相談員も現在は、仕事をしながら活動している人も増えているそうです。相談員さんに応募されたきっかけを尋ねたところ、「何か社会貢献をしたいと考えていました。退職後、相談員募集の新聞記事が目にとまり、自分にできるだろうかとの思いがありました。が思い切って応募してみました。」ということでした。

現在の相談員は183名。いのちの電話は眠らない電話ですが「つながらない電話」とも言われています。相談員の不足により電話を取ることでできない。相談員の確保は緊急の課題となっています。「私たちの活動を伝える理解してもらうことが必要。そのためには、広報は大切ですが、予算は厳しく、共同募金の配分金でもとても助かっています。」相談者が抱える「孤独」。福岡いのちの電話は、「大丈夫。皆ひとりじゃない。」とメッセージを発信し続けています。

このように多くの人の心を支える活動に共同募金が活用されています。

いのちの電話とは

自殺予防を目的として、1971年に東京で創設され、現在、全国に50のセンターがある。24時間年中無休で、匿名の相談を受けている。福岡県内には北九州と福岡の2カ所。

相談は こちら 福岡いのちの電話
☎ 092-741-4343

電話相談員を募集しています！

特別な資格や学歴は必要ありません。約2年間の養成研修があります。電話相談は、ボランティア（無報酬）です。詳しくは、福岡いのちの電話 事務局まで！

☎ 092-713-4343



右から 常務理事 五斗 美代子 氏
事務局長 濱 孝明 氏

【問い合わせ先】

福岡県共同募金会
☎ 092-584-3388

社協と施設の専門性を活かした社会貢献活動を！

福岡県社会福祉協議会（以下、本会）では、去る1月27日、福岡市JR九州ホールで、「地域をもっと良くするための社会貢献活動セミナー」を開催しました。

社会福祉法人（以下、社福）は、事業の延長線上にある地域課題に対応するため、地域公益活動にも積極的に取り組むことが求められています。本会では、これから社福が、国民に期待される地域公益活動に取り組んでいくためには、個々の法人での取り組みだけでなく、社会福祉施設（以下、施設）、社会福祉協議会（以下、社協）、地域等が連携し、それぞれの強みを活かした役割を果たしていくことが重要であると考え、本セミナーの副題を「施設と社協が連携した新たな地域公益活動の形」とし、各施設や社協、地域関係者を対象に広く呼びかけて実施しました。

当日は、県内だけでなく、九州各県や四国から、施設、社協、行政、民生委員、福祉関係者等約300名が参加されました。



文京学院大学 中島 修 准教授

社会貢献の見える化が必要

はじめに、「社会福祉施設と社会福祉協議会の連携した社会貢献のあり方」と題し、文京学院大学の中島修准教授に講演いただきました。

中島氏は「社福は社会貢献をしているか、と問われれば、間違いなくしています。また、営利企業はどうかと問われれば、CSRの一環で多

くの企業が取り組んでいるのも事実。一方、非営利の公益法人である社福には、営利企業よりも地域の課題に即応した支援が求められています。このような支援は、決して新しい取り組みではなく、これまでも各法人が大なり小なり行ってきたことです。これまで各施設・法人単位で行っていた『点』や『線』の支援を、地域の社福・関係機関等が連携して行う『面』による支援に発展させ、『見える化』していくことが必要であり、今、求められていることではないでしょうか。」と課題提起されました。

期待される社福の専門性の発揮

また、「SOSが出にくい人たちの支援は、営利企業のCSRなどではできない、社福だからこそできる地域公益活動なのではないでしょうか。特に生活困窮者支援については、支援対象に若者が入ってくるなど、対象者が広がり、課題も多様化しています。その支援は、地域の課題であり、行政が社福による支援を強く望んでいる部分です。制度ができるほど、複雑化した制度を使いこなせない人が増えている状況もあります。また、本人が自身の課題をわからなくなるような状況もあり、総合相談が重要となってきています。そのため、相談援助の専門性や



熱心に耳を傾ける参加者

多職種による連携が求められます。これに対応できる専門職がいるのが、社福（社協や施設）なのです。まずは、各地域で社福同士が問題意識を共有し、連携することで、関係機関・団体を巻き込み、それぞれの地域にあった支援に取り組んで欲しい。今後は、地域を基盤としたソーシャルワークとともに、複数団体のサービスを組み合わせるケアマネジメントが生活困窮者支援にも不可欠となります。その中核として、社福が取り組んで欲しい。」と社福への期待をお話いただきました。

社協や施設の専門性を活かすことが重要

実践報告では、地域課題解決のために、施設と社協が連携している事例を、それぞれの立場からご報告いただきました。

まず、県内の実践例として、糸島市にある**社会福祉法人志摩会 黒木一宏 事業統括部長**と、**糸島市社協 加藤 博貴 地域課長**から、「施設の持つ専門性を地域のために活かす!!」社会福祉協議会・他事業所との連携によるサロン活動の取り組み」と題し、ご報告いただきました。

黒木氏からは、「平成6年に、社協が地域連携のための協議会を設立したいと提案したのが、社協との付き合いの始まりでした。それまで競合相手だと考えていた社協が、一緒に事業を行う関係となったのは、離島での事業展開がきっかけでした。地域づくりをしたい社協と、地域を何とかしたいという法人の想いが一致し、双方で職員を雇用し、採算度外視で事業を展開していただきました。施設だけではできないことを、地域のニーズなどを把握している社協と連携することで、地域包括ケアシステムにつながる支援ができる」と考えています。」

また、加藤氏からは、「地域福祉

では、自助、共助、公助のバランスが大事。地域をよくしたいという同じ思いや目標を持って、各法人が持つ専門性・人材を共有化することで、個々の法人ではできない取り組みができます。」とそれぞれ話していただきました。



糸島市社協 加藤 博貴 氏



志摩会 黒木 一宏 氏

地域資源としての社協の役割

次に、静岡県菊川市にある**社会福祉法人和松会 板倉 幸夫 常務理事**、**菊川市社協 地域福祉係 堀川 直樹**氏から、「既存制度で対応できない地域課題は、社会福祉法人が受け止める!!」菊川市のセーフティネット支援ネットワークの取り組み」と題し、菊川市社協が中心となって市内の社協で構築しているセーフティネット支援ネットワーク会議を中心にご報告いただきました。

堀川氏は、「各相談機関が得意分野を活かして横につながり、引きこもりや重層的な課題を抱える方など、地域の困難事例への支援を行うため、セーフティ



菊川市社協 堀川 直樹 氏



和松会 板倉 幸夫 氏

ネット支援ネットワークを構築しました。既存制度では対応できない、支援を必要とする方は少なからず地域におられます。社協は、各法人や、その専門性をつなぐ事務局としての役割を担っています。」と報告いただきました。

板倉氏からは、「社福には、ヒト、モノ、スキルがあります。社協は地域の問題を発見するのは得意だが、それを解決するために必要なものは、施設の方が持っていると感じている。地域資源の1つとして、施設と社協が上手く連携していくことが、より良い地域づくりにつながります。」とお話いただきました。

全ての社協が連携し、地域課題に取り組むことが必要

最後に、パネルディスカッションは、「今こそ社会福祉法人の大同団結を!!」社会福祉施設と社会福祉協議会が連携し、地域課題を解決するために必要なものは」と題し、中島氏にコーディネートを、実践報告の4名の方をパネリストとして参加いただきました。

まとめとして、中島氏は、「社福は、これまで様々な支援を先駆的に取り組みながら制度化を図ってきました。今、社福に求められている地域公益活動も、まずは公益活動として取り組みながら、制度化できるものは制度化していくことが必要ではないでしょうか。そして、社福には常に新たな狭間の問題に取り組んでいくことが期待されています。」

社福のこれまでの活動を整理して発信しながら、併せて、新しい課題に取り組むというメッセージを出していくことが大事。それぞれの専門性を地域のために活かしていくためには、全ての社福の連携が不可欠だと改めて感じました。」と、お話しいただきました。

【問い合わせ先】

福岡県社会福祉協議会 施設課
☎ 092・584・3377

福岡銀行様から北九州市内の児童養護施設へ図書を寄贈！

福岡銀行では、地域子ども達に「読書」を通じて、豊かな人間性や感受性を育む学びの機会を提供するという目的のもと、平成24年度から福岡県内の児童養護施設に図書を寄贈しています。

今年度は北九州市内の6つの児童養護施設に寄贈されました。

去る2月5日に双葉学園（北九州市小倉南区）で行われた贈呈式では福岡銀行 クオリティ統括部 部長代理 坂下 正治 様（写真右から3番目）からそれぞれの施設に目録を贈呈いただきました。

坂下様から「若者の読書離れが進む中、図書に親しんでいただき、人間性の豊かな子どもに育ってほしい。」との言葉をいただきました。

また、双葉学園 施設長で北九州市児童養護施設協議会の西田 稔夫 会長は、「心温まる寄贈に大変感謝しています。いただいた図書は子どもたちのために大切に使用させていただきます。」と感謝の言葉を述べられました。



福岡県民共済協同組合様から本会へ寄付をいただきました！



福岡県民共済協同組合様からご寄付をいただきました。

同組合では、平成18年に組合創設20周年を記念し、社会貢献の一環として、本会に貴重な浄財を寄付いただき、以来、毎年ご寄付いただいております。

去る1月23日に行われた贈呈式では、福岡県民共済協同組合 常務理事 石丸 一宏 様（写真左）から富安 節子 本会常務理事へ目録が贈呈されました。

お寄せいただいた浄財は、同組合のご意向により、障害者の働く場である地域活動支援センター等の活動用車両購入のために活用させていただきます。

福岡県民共済協同組合様、ありがとうございました。

トヨタ部品福岡共販(株)様から福岡県共同募金会へ寄付をいただきました！

トヨタ部品福岡共販株式会社様（本社 筑紫野市）から、本社及び支社のある福岡県、佐賀県、長崎県、大分県の共同募金会にご寄付をいただきました。

去る平成26年12月24日、本会が各県共同募金会を代表して、同社代表取締役社長 鈴木 国和 様（写真右）に、中央共同募金会会長感謝状を伝達し、各県のお礼状をお渡ししました。

今回のご寄付は、職員の皆さんの発案によるものとお聞きし深く感謝しております。

本当にありがとうございました。



2015年版 社会福祉手帳・民生委員児童委員手帳 販売しています



金額（税込）
1冊 800円

送料別途

1冊 250円、2～6冊 360円、7冊以上 600円

●携帯に便利なポケットサイズ ＜縦14cm 横8.5cm＞

●スケジュール欄は、見やすい見開きカレンダータイプ（2016年3月分まで）

【主な内容】

- 社会福祉関係資料・・・社会福祉関係法律の要点など
- 福岡県関係資料・・・県内社会福祉施設、福祉事務所、児童相談所、年金事務所、保健所、地域包括支援センター等の所在地・電話番号、各種相談窓口の連絡先、福岡県の人口と世帯・高齢化率等

【問い合わせ先】 福岡県社会福祉協議会 総務課 ☎ 092-584-3377

サービス水準のさらなる向上を目指して、第三者評価を活用しましょう！

平成27年1・2月に福祉サービス第三者評価の結果を公表している社会福祉施設・事業所を公表します。

◇社会的養護関係施設第三者評価 4件

【児童養護施設】天使育児園、【乳児院】北九州乳児院、【母子生活支援施設】サン・フラワー京築

評価結果は、全国社会福祉協議会(全国推進組織)HP <http://www.shakyo-hyouka.net/> または
福岡県福祉サービス第三者評価推進機構HP <http://www.fsw.or.jp/hyoka/top.html> をご覧ください。

◇福祉サービス第三者評価 2件

【保育所】糸島市立神在保育所、【養護老人ホーム】養護老人ホーム 双葉

評価結果は、福岡県福祉サービス第三者評価推進機構HP <http://www.fsw.or.jp/hyoka/top.html> をご覧ください。

福岡県福祉サービス第三者評価機関が、4評価機関となりました

●**受審の申込み**については、下記評価機関へ直接お問い合わせください。

- ・公益社団法人福岡県社会福祉士会 ☎ 092-483-2944
- ・特定非営利活動法人医療・福祉ネットワークせいわ ☎ 0952-41-6522
- ・特定非営利活動法人北九州シーダブル協会 ☎ 093-582-0294 **新規**
- ・公益社団法人福岡県介護福祉士会 ☎ 092-474-7015 **新規**

●**問い合わせ先** 福岡県福祉サービス第三者評価推進機構事務局
福岡県社会福祉協議会 県民サービス部 評価・相談課 ☎ 092-584-3610

介護福祉士・社会福祉士を目指すあなたに！修学資金貸付制度があります！

介護福祉士等修学資金貸付制度とは**介護福祉士・社会福祉士の養成施設又は実務者養成施設に在学する学生で、将来福岡県内において介護業務等に従事しようとする方に対し、資金の貸付を行う制度**です。

■貸付対象者

県内で5年以上勤務すれば、返還免除！

- (1) 福岡県内の養成施設等又は実務者養成施設等に通学している方であること。ただし、県内に居住している方で県内及び県外の養成施設等又は実務者養成施設等の通信課程に在学している方を含みます。
- (2) 優秀な学生であると養成施設等又は実務者養成施設等の長が推薦する方であること。
- (3) 修学に際し、経済的援助を必要とすること。
- (4) 同種の修学資金又は修学に係る公的な経済支援を他者から受けていないこと。
- (5) 養成施設を卒業後、福岡県内で介護業務等に従事しようとする方であること。

■貸付制度の概要

貸付額	養成施設等	月額 50,000円以内
		入学・就職準備金 各200,000円以内(各1回のみ)
		生活費加算 (※)
	実務者養成施設等	200,000円以内
利子	無利子	貸付期間
保証人	連帯保証人2名が必要	返還免除

※貸付申請時に生活保護受給世帯やそれに準じる経済状況にある世帯の子等の場合、通常の貸付に加え、生活費加算を申請することができます。詳細は下記までお問い合わせください。

■申請手続 養成施設等の入学後、養成施設等の窓口を通じて行います。

【問い合わせ先】 福岡県社会福祉協議会 総務課 ☎ 092-584-3377

賠償・傷害のセットプランをおすすめします!!

平成27年度

全社協 保育所の損害補償

スケールメリットを活かした有利な補償と割安な保険料です。



◆ 加入対象は社会福祉法人等が運営する認可保育所です。

セットプラン

● 簡単、便利なインターネットで手続きを

ふくしの保険

検索

<http://www.fukushihoken.co.jp>

基本セット補償		年間保険料	
賠償責任		定員数	保険料
対人賠償	1名→1億円 1事故→7億円	41～50名	22,700円
対物賠償	1事故→1,000万円	51名以降 1～10名増ごとに 90名まで	1,200円
受託物賠償	200万円(自己負担なし) うち現金補償→20万円限度	91～100名	29,300円
人格権侵害	期間中→1,000万円	101名以降 1～10名増ごとに 150名まで	1,200円
初期対応費用	期間中→500万円	151名以降 1～10名増ごとに	1,420円
事故見舞金	1事故→10万円限度 (見舞金・見舞品は1名につき5万円限度)	園児1名 1口あたり	870円
園児傷害	死亡保険金	121.2万円	
	後遺障害保険金	程度に応じて死亡保険金の4%～100%	
	入院保険金	1,700円*	
	通院保険金	1,100円	

基本セット補償保険料計算例

100名で加入の場合

賠償	29,300円
傷害 870円 ×100名 ×1口	87,000円
合計	116,300円

*手術保険金のお支払い額は、入院中の手術の場合：入院保険金日額の10倍、外来の手術の場合：入院保険金日額の5倍となります。



天災セット補償		年間保険料	
賠償責任		定員数	保険料
対人賠償	1名→2億円 1事故→10億円	41～50名	28,000円
対物賠償	1事故→1,000万円	51名以降 1～10名増ごとに 80名まで	1,500円
受託物賠償	200万円(自己負担なし) うち現金補償→20万円限度	81～90名	33,900円
人格権侵害	期間中→1,000万円	91～100名	36,200円
初期対応費用	期間中→500万円	101名以降 1～10名増ごとに 150名まで	1,500円
事故見舞金	1事故→10万円限度 (見舞金・見舞品は1名につき5万円限度)	151名以降 1～10名増ごとに	1,800円
園児傷害	死亡保険金	108万円	
	後遺障害保険金	程度に応じて死亡保険金の4%～100%	
	入院保険金	1,500円*	
	通院保険金	1,000円	

個別プラン

プラン1 保育所業務の補償

- ① 基本補償
- ② 個人情報漏えい対応補償
- ③ 保育所の什器・備品損害補償

プラン2 保育所利用者の補償

- ① 園児の傷害事故補償
- ② 来園者の傷害事故補償
- ③ 園児送迎車搭乗中の傷害事故補償

プラン3 保育所職員の補償

- ① 保育所職員の労災上乗せ補償
- ② 保育所職員の傷害事故補償
- ③ 保育所職員の感染症罹患事故補償

●この保険は全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約(「賠償責任保険」「普通傷害保険」「労働災害総合保険」「約定履行費用保険」「不動産総合保険」)です。

●このご案内は概要を説明したものです。詳しい内容のお問い合わせは下記までお願いします。●

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

(引受幹事保険会社) 損害保険ジャパン日本興亜株式会社
TEL:03(3593)6824

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL:03-3581-4667 FAX:03-3581-4763